

# 昭和から続く北海道えりもの天日干し日高コンブの生産と藻場再生によるCO<sub>2</sub>吸収

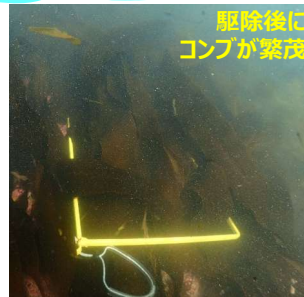
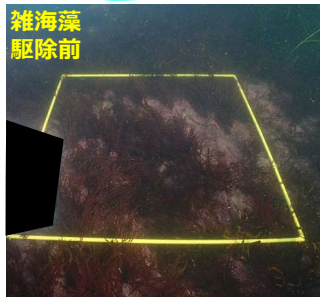


## プロジェクトの背景

えりも町・えりも漁業協同組合・えりも岬の緑を守る会

昭和初期、えりも岬周辺は「えりも砂漠」と呼ばれ、森林伐採等により砂漠化が進み、沿岸海域は流出した土砂により濁りが発生し、魚が寄りつかず、昆布は根腐れを起こすなど、海域環境は著しく悪化しました。豊かな海域環境を取り戻すため、漁業者らが中心となり、百人浜緑化事業が昭和28年に開始され、町民の並ならぬ努力により豊かな森林・海域環境を取り戻すことができました。この活動は70年経った現在でも、その意思は引き継がれ、本プロジェクトもその系譜を継ぐものです。

## プロジェクトの概要



植樹による緑化事業に加えて

- 小型海藻類が繁茂している地区の雑海藻除去による着生基質の改善
  - 漁期中又は漁期後に漁業者による簡易的な雑海藻の除去
- の実施とともに、資源管理と環境に配慮したコンブ漁業の実施により、えりも町沿岸の豊かなコンブ藻場を維持し、CO<sub>2</sub>吸収により地球温暖化の緩和にも貢献しています。

## 特徴・PRポイント

- 植樹と雑海藻駆除によりグリーン&ブルーカーボンのCO<sub>2</sub>貯留に取り組んでいます。
- 船での漁業権は7～10月ですが、例年9月末に漁を切り上げて資源保護に努めています。
- CO<sub>2</sub>を排出する乾燥機等は使わず、天日干しにて出荷し、地球温暖化にも配慮しています。
- 漁業者による日常的な雑海藻駆除は機械力を用いない手作業等により実施しています。



## コベネフィット(地域の活動との連携)



- 町内小中高で環境教育の実施 (児童による磯そうじ・ブルーカーボンに関する出張授業等)
- 漁業者のコンブボートクルーズによるエコツーリズム
- 緑化事業を題材に映画「北の流氷(仮)」を制作中



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS